**平成２７年度秋季審判講習会報告書**

館林支部　磯　　清

坂本　雅美

堀越　春幸

　増田　泰丈

11月８日上毛新聞敷島野球場で開催されました群馬県野球連盟秋季審判実技伝達講習会に

参加致しましたので、講習内容の報告をするともに、支部審判員に伝達を行います。

当日は、雨天の為、午前中はグランドで、Go-Stop-Call 及び塁審の立ち位置、構え方の

確認と、室内練習場で球審の構え方などを再度、確認を致しました。

午後は、場所を楽々園に移して、研究会を行いました。

講習会で説明頂いた内容については、下記に報告致します。

午前中

　Go-Sop-Call

　　審判の基本動作の反復練習

　　　止まってプレイを見る為に走り方、足の運びかた、止まり方を意識し

　　　その上ではっきりとコールする事を心掛けて行った。

　　　セットにおいても、ハンズ・オン・ニーズ・セットポジションの姿勢を

　　　意識して行った。

　　塁審の立ち位置の通達

　　　二塁審が中に入る時は、必ず二塁手側に入る。これは、今までは、自分の

見やすい方に入ったが遊撃手側に入った場合、遊撃手側に打球が来た場合の

対応に、それなりの技術が必要で、そのリスクを回避する為には二塁手側に

入る事を群馬県の統一にする事で審判員全体の技術向上を図る事が目的。

　　 また、二塁審判が内側に入った場合に、投手が投球する際にセットの姿勢を

　　 より低くするなど、大きく動かさない事。これは打者に対して、非常に

　 　目ざわりになる場合もあり、特に左投手の場合は投げ手と審判が重なるので

　　 注意する事。

　　 ノーアウト・ワンアウト ランナー三塁で二塁審判は、三塁のプレイに備えて

ポジションを遊撃手寄りにいる場合が多いが、確率的に一塁のプレイが多いので

二塁ベースに近い位置にポジションを取り、一塁のプレイをサポート出来る様に

する事。

　　 一・三塁審はランナーがいる場合、投手に対して正対し、投球時は、体の向きは

　　 そのままで、頭だけを打者に向ける

　　三塁審は、ランナー二塁にいる場合、三塁盗塁を想定した位置取りを意識する

反則投球・ボークの説明

　　　ルールに則り、投球動作を説明

　ハーフスイングについての説明

　　　バット少し動いた状態をハーフスイングでコールする場合が見受けられる。

　　　ハーフスイングの目安としてバットがコントロール出来なくなった状態又は、

打者の捕手側の腕が体から離れた状態。

また、投球が打者の近くに来た場合、球審も人間の習性で目をつぶる場合も

あるので、自身が無い場合は、塁審に確認する事。

それと、ハーフスイングと思える動作に対して、打者を指差してボールという

ケースがあったが、指差しをおこなった時点でストライクという事を認識する

トラッキング

 　三人一組でボールを目だけで追う確認動作を行う。

　　トラッキングが出来たチームが投球判定を行う。

　　トラッキングのポイントとして下記を再確認しました。

　　投手が投げたボールを捕手が捕るまで、顔を動かさずに目だけで追う。

　　捕手のミットを見たままで、ボールの軌跡をイメージしてコールする。

　　捕手のミットを見たままにするのは、落球や妨害を確認出来る様にする為、

　　このトラッキングを見につける事で一定のタイミングで安定したジャッジを

　　行う事が出来る様になる。

投球判定

　　球審の構えの確認を行う

　　ストットポジションの確認で、ホームプレートの内側にラインに自分の

　　体の中心を置く様にする事を意識する。

　　スロットフットとトレルフットの位置をHeel・Toe・Heel・Toeに合わせる。

　　オン・ザ・ラバー/ゲットエット/コール/リラックスを一定のリズムで行える様、

　　意識する。

研究会報告

　第９７回全国高等学校野球選手権群馬県大会での反省

　　球審

　　　(１) 明らかなスイングに対し、ポイントのジャスチャー(ハーフスイング)が

　　　　 見受けられる

　　　　　原因をして、判定が早い、ポイントのジャスチャーを気にしすぎている

　　 （２）ハーフスイングの見極めが甘い人が一部身受けられた

　　　　　午前中も含め、講習会で伝達しているが、ハーフスイングの重点事項が

　　　　　徹底されていない

　　 （３）無走者または走者一塁時、打球を一塁審判員が追った場合の打者走者の

　　　　　 一塁触塁の確認もしくは、一塁でのプレイが起こる可能性の位置取りが

　　　　　　できていない（使い分けが出来ていない）

　　　　　　全てのプレイに対し、内野内に位置取りする人が多い

　　塁審

　　　（１）一塁審

　　　　　　①走者一塁時、ベースから離れすぎている人が多く散見された。

　　　　　　　　一塁の際どいプレイの判定位置が遠い。

　　　（２）二塁審

　　　　　　①内野内に位置した時に、遊撃手の前に位置する方が散見された

　　　　　　　　　遊撃手前に位置した時のリスクが分かっていない

　　　　　　②二塁盗塁時の判定に疑問が残った

　　　　　　　　　タイミングは‘アウト’

　　　　　　　　　膝または腰にタッグした場合、爪先が先にベースに入っている

場合があるので、しっかり確認してジャッジする。

　　　（３）三塁審

　　　　　　　①三塁盗塁時に疑問が残った

　　　　　　　　　二塁盗塁時同様に、膝または腰にタッグした場合、爪先が先に

ベースに入っている場合があるので、しっかり確認してジャッジする。

　　　（４）共通

　　　　　　　①落球（ボールを拾い上げた）時の‘タッグアウト’が見受けられた

　　　　　　　　　基本通りに捕球を確認してから判定が重要

　　　　　　　　　野手が全体的に深く守る傾向となっている為、立ち位置からの

　　　　　　　　　判定位置への移動の訓練が必要

　ミズノトーナメント(10月17日・18日)での事例

　１．ダブルジャッジ

　　(1) 無死満塁、打者の三塁ライン際へのボテボテのゴロ、三塁手は前進したが打球を

　　　 スルー、球審はファールのコール、その後打球はフェアーゾーンへ、三塁審判は

　　　 フェアーのジャッジ、三塁走者に続き二塁走者も本塁に達した。守備側からの抗議、

　　　 審判協議の結果フェアーと判定、2点を認め、無死走者一・二塁で再開

　　　　　原因としては、ベースまでの打球判断をどちらかが行うかを試合前の

　　　　　ミーティング不足。三塁審判が球審を見ていれば、回避できたのは？

　　　　　アピール後は、打球の判断責任のある球審の判断を優先すべきではなかったか。

　　　　　再開も2点を認め、無死走者一・二塁での再開は適切だったか、各自が考える

(2) 走者一塁、走者は牽制で挟殺プレイとなる。野手はタッグに行った時に同時に

　　二塁審判は‘ノータッグ’のコール、一塁審判は‘ラインアウト’のコール

　　ラインアウトでアウトとした。

　　　講習会等で伝達されている責任区分を再度、確認する。全体のプレイを

　　　見てからジャッジすれば、さし違いは防げるのでは。

(3)二塁盗塁時に二塁審判はタッグを見てパンチアウトでアウトのコール、しかし

　タッグの流れの中で野手は落球、二塁審判はアウトを通した。

　　　ジャッジは捕球を確認してから行えば、防げたのでは。

　　　パンチアウトに意識が行ってしまい、捕球、タッグの確認が不足している。

　　　基本をしっかり身に着け、確認を十分に行ってからジャッジをする事を意識。

横溝技術委員長との確認事項

　　１　捕手から一塁への送球時の一塁審判の位置取り

　　２　一塁に走者がいて、一塁手が塁についている時の位置取り

　　３　一塁手が打球を処理し、ベースカバーの投手へトスする時の位置取り

　　４　一塁送球がそれた場合の一塁審判のアジャストの方向

　　５　一塁及び三塁に走者がいるときの一塁審判及び三塁審判の身体の向きの移行

　　６　投手の牽制時の一挙動について(一塁牽制もあれば二塁牽制もある)

　　７　投手の牽制時の軸足について